

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 29 日作成)

委員会名	PC 建物性能評価小委員会	主 査 名：加藤博人
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (プレストレストコンクリート構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：浜原正行
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	PC 構造が有する多くの優れた性能を地震リスク・マネジメント的な手法を用いて評価し、ライフサイクル・コストも含めた PC 構造の性能を定量的に評価、表示するための技術整備に向けた検討を行う。 2004 年度は、既存技術の調査・検討、および地震リスク・マネジメント手法の基礎的調査を行い、基本シナリオについて検討する。	
委員構成 (委員名(所属))	加藤博人(建築研究所)、市澤勇彦(株)ピーエス三菱、小山内裕(オリエンタル建設株)、岸本一蔵(大阪大学)、蔵田富雄(三井住友建設株)、高津比呂人(株)竹中工務店、佐藤啓治(大成建設株)、高橋雄司(建築研究所)、出口兼(和歌山県)、西山峰広(京都大学)、深井悟(株)日建設計)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2004 年度予算	180,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 12 月 21 日 3 人 2005 年 2 月 10 日 3 人
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>地震リスク・マネジメント手法に関する研究の現状と、実用化に向けた検討状況について資料収集を行った。現状は、既存建物の耐震補強を行う際に、構法選択を合理的に行う手法への応用などが検討されている。 建築計画において、PC 造建物の構造的特性を適正に評価し、構造選択を支援する手法への応用の可能性などについて調査した。 また、限界状態の設定に関連して、PC 構造で考慮すべき要因等について既往の研究成果の整理を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>初年度に予定していた基礎的調査に着手した。しかし、諸事情により委員会を開催しなかったため、審議が不十分であったことは反省点である。</p>
その他評価すべき事項	